

# もっと使えるシラバスへ

東京大学 大学総合教育研究センター  
栗田 佳代子

2017年11月22,29日  
明治学院大学

## 目的と到達目標

### 目的

学生の学習をより促進するシラバスの役割とコースデザインを理解し、シラバスを改善する

- シラバスの役割を3つ以上あげることができる
- コースの目的・目標を適切に設定できる
- 持参したシラバスを理由を明確にして改善できる
- シラバス構成の改善について具体的な指針を持てる

## 目次

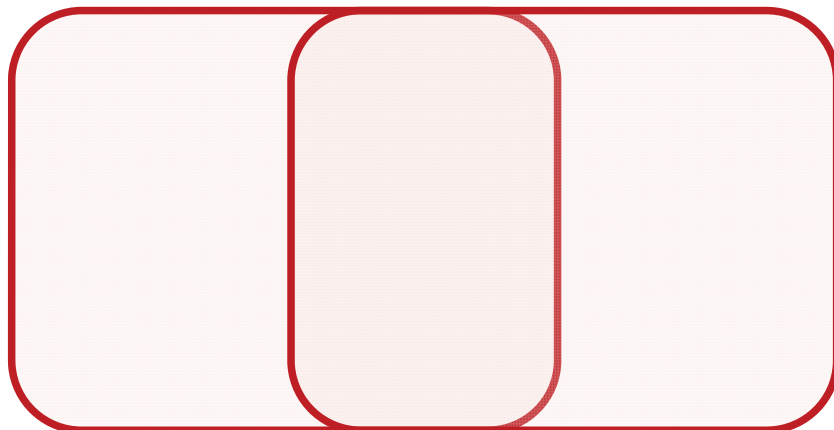
- はじめに
  - 目的と到達目標
- シラバス再考
  - 役割
  - 定義
- コースデザイン
  - 逆向き設計
  - グラフィック・シラバス
- まとめ
  - 参考文献

## シラバス再考

## シラバス ~役割~

学生にとって

教員にとって



4

## 定義

Syllabus 語源 : syllabus (modern latin) "list"

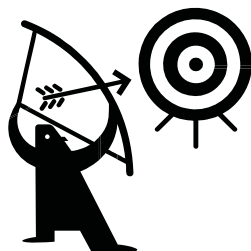
The syllabus is a "**contract** between faculty members and their students, designed to **answer students' questions about a course**, as well as inform them about **what will happen should they fail to meet course expectations.**"

(Slattery & Carlson,2005)

5

## 定義

- **各授業科目の詳細な授業計画。**(中略) 学生が**各授業科目の準備学習**等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる (文部科学省, 2012)



6

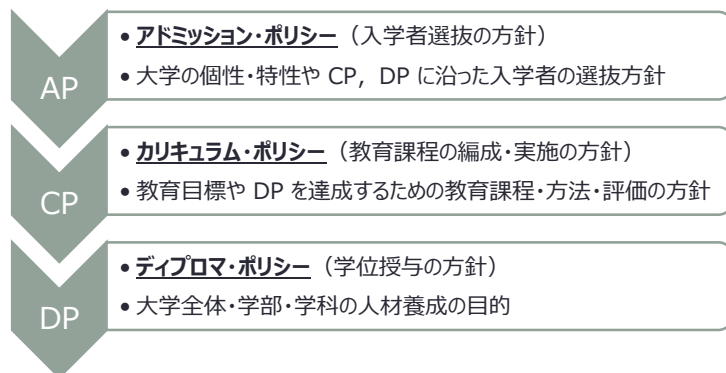
## シラバスの項目

- 授業科目名
- キーワード
- 目的
- 目標
- 授業概要
- スケジュール
- 時間外学習の関連情報
- 成績評価法
- 教科書・参考書
- 受講条件
- 受講のルール
- オフィスアワー
- 連絡先
- その他

7

## 授業科目名

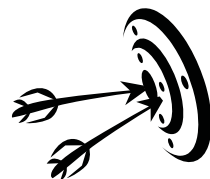
- ・カリキュラム・ポリシーに沿うようにつける
- ・英文併記を求められる場合もある
  - ・留学生，海外大学との単位互換への対応



8

## 目的

- ・この授業の存在意義
- ・「なぜこれを学ばなければならないのか？」という問いに対する答え

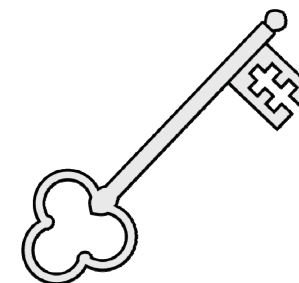


10

## キーワード

- ・学生が授業概要をつかみやすい用語
- ・学生が授業終了後に説明できてほしい用語
- ・項目がなくても明示可能
- ・検索を意識する

◆ **WORK** ◆  
キーワードを  
挙げてみましょう



9

## 目的の書き方

- ・学生を主語にする
- ・総括的な動詞を用いる

「授業の目的」に使用する動詞の例

修得する 身につける 理解する 創造する  
位置づける 価値を認める 知る 認識するなど

東大FFP (日本医学教育学会 2008)

11

## 目標

- 目的を具体化したもの
- 学生にできるようになってほしい事柄  
(Goal, Learning Outcomes)
- そのまま成績評価項目になる
- 観察可能な行動で記述する
- 適切な目標は学生の自学自習を促す

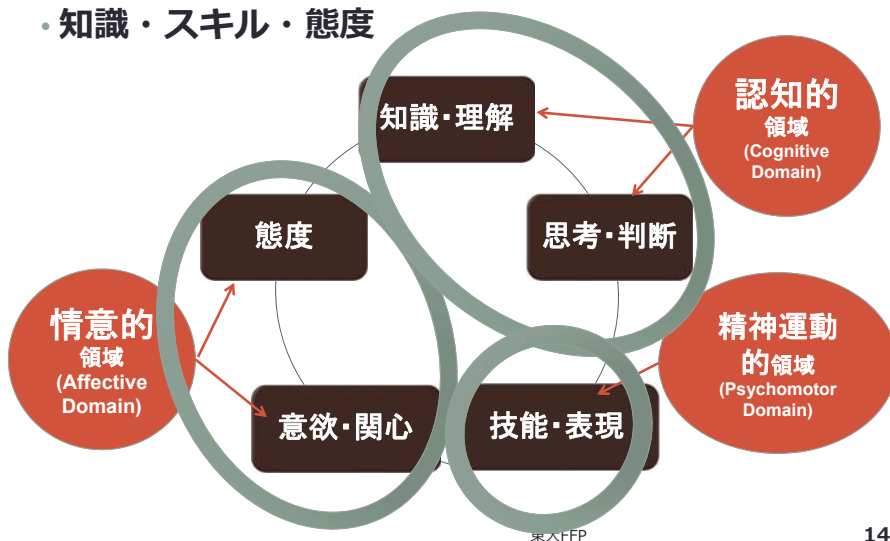
## 目標の書き方

- 学生を主語にする
- 一つの文章に一つの目標  
複数の目標があると達成度測定が困難
- 評価される基準を明示する  
例 「具体例を3つ以上説明できる」  
「1分以内で完成させることができる」
- 現実的かつ、チャレンジングなレベルに設定  
ジャンプすれば届く距離



## 目標の分類

- 知識・スキル・態度



## 目標の設定

- Bloom の教育目標分類 (タキソノミー)  
8年間かけて作られた教育目標の分類 (Bloom, 1956)  
大きく分けて3つの領域に分けられる

	認知的領域 (知識)	情意的領域 (態度)	精神運動的領域 (スキル)
高次	評価		
	統合	個性化	自然化
	分析	組織化	分節化
	応用	価値付け	精緻化
	理解	反応	巧妙化
低次	知識	受け入れ	模倣

## 目標の記述に使う動詞

### 授業の目標に使用する動詞(認知的領域)

列記(挙)する 述べる 推論する 記述する  
説明する 分類する 比較する 対比する  
類別する 弁(識)別する 関係づける 予測する  
具体的に述べる 結論する 同(特)定する  
公式化する 一般化する 指摘する 選択する  
使用する 応用する 適用する など

(日本医学教育学会 2008)

東大FFP

16

## 目標の記述に使う動詞

### 授業の目標に使用する動詞(精神運動的領域)

測定する 実施する 模倣する 熟練する  
工夫する 触れる 行う 調べる 操作する  
挿入する 準備する 手術する 視診する  
聴診する 触診する 打診する など

(日本医学教育学会 2008)

東大FFP

17

## 目標の記述に使う動詞

### 授業の目標に使用する動詞(情動的領域)

協調する 配慮する 参加する  
コミュニケーションする 討議する 尋ねる  
示す 見せる 助ける 感じる 行う 相談する  
寄与する 反応する 応える など

(日本医学教育学会 2008)

東大FFP

18

## ◆WORK◆ 目的と目標の改訂

手元のシラバスを**自分が担当する授業の「良いシラバス」**となるよう改善しましょう

- ・シラバスの目的と目標について下記を確認し必要に応じて書き直しましょう
  - ・コースに適した目的目標が設定されているか
  - ・正しい表現であるか
- ・ペアを組んで下記についてシェアしましょう
  - ・シラバスの解説
  - ・目的・目標の修正結果と修正理由・ディスカッション

19

## 授業概要・スケジュール

- 授業概要
  - 授業で扱う内容を簡潔にわかりやすく記述する
- スケジュール
  - 日付, 各回の概要, 課題などの情報を示す
  - 授業時間外の学習/課題がある場合は明記
  - 表による表示など見やすい工夫をする

【授業計画】

日時	講義内容	授業毎 課題内容
◆ コンピュータ基礎事項と Java 基礎文法 + Windows の応用手法		
第1回 4/16	【コンピュータ・プログラムの概要】 Windows を用いて、GUI と CUI の違い、CPU とメモリとハードディスクの関係性を学ぶ。また、プログラムの動作に関する概念を学ぶ。	• GUI と CUI の相違点の記述 • CPU、メモリ、ハードディスクの関係性の記述 • プログラムの動作原理の記述
第2回 4/23	【開発環境構築】 自分の持つ PC でプログラミングを可能にするため、開	• 総合開発環境の説明記述 • Windows における環境変数の説

20

## 教科書・参考書

- 教科書
  - 教科書を使うかどうかを明記
  - 使う場合には入手するための書誌情報を明記
- 参考書
  - 授業中に直接使用しない書籍
- 教科書・参考書は自学自習を促進
  - 初年次の学生にとっては学問への誘い
  - 学生の多様なレベルへの対応が可能

22

## 成績評価

- 明記すること
  - 成績を評価する方法
  - 成績評価の配分割合
  - 評価の採点基準
  - テストやレポートの内容 (提出期限, 時期)
- 留意事項
  - **目的・目標と対応**させる (原則全て網羅, 間引きしない)
  - 成績評価基準は**測定可能**なものにする
  - 授業における学習と**関係ないものを評価対象としない**

21

## 受講条件・ルール

- 受講条件
  - 受講にあたって必要な知識・技術・技能を明示
- 受講ルール
  - 遅刻・早退・欠席の定義
  - 剽窃などへの対応
  - 受講のマナーへの対応
    - 飲食
    - 私語

受講者に応じた  
内容を示しましょう

23

## オフィスアワー・連絡先

---

- **必ずアクセスできる**よう記載
  - 具体的かつ適切な時間指定
  - 電話番号, メールアドレス, 住所を記載



24

## ◆WORK◆ シラバスの改善

---

- 持参したテキストシラバスについて「**学びを促せる**」ように改善しましょう。その際なぜ改善が必要か理由も明確にしましょう。
  - FFPのシラバス, 持参のシラバス, グラフィックシラバスをヒントにしましょう。
- グループでシェアしましょう
  - グループワークで新しく得たことを自分のシラバスの改善にいかしましょう

25

## Q&A

---

コースデザイン

---

26

27

## 逆向き設計

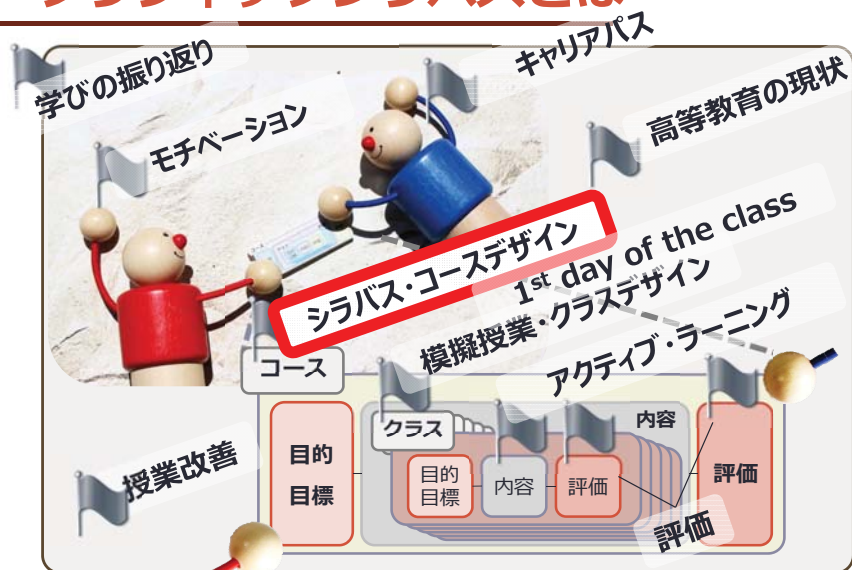
Backward Design(Wiggins & McTighe, 2005)

1. 求められている結果を明確にする
  - 学習目標、学習成果の決定
  - 例) 栄養について理解し、自分や他者に対してバランスの良い献立を考案することができる
2. 承認できる証拠を決定する
  - 評価方法、最終課題の決定
  - 例) 3日間キャンプのバランスが良い美味しい献立の作成
3. 学習経験と指導を計画する
  - 授業内容と方法の決定
  - 例) 食べ物の種類、必須栄養素

東大FFP

28

## グラフィックシラバスとは



30

## グラフィック・シラバスとは

- A graphic syllabus can be defined as..  
A **flowchart** or **diagram**  
that displays

**the sequencing and organization of major course topics**  
through the semester

(Nilson,2007)

東大FFP

29

## グラフィックシラバスとは

テキストシラバスとの対比

1. 高等教育の現状
2. モチベーション
3. アクティブ・ラーニング
4. コースデザイン (シラバス)
5. クラスデザイン
6. 評価
7. 学んだことのまとめ
8. 模擬授業 (ブラッシュアップ)
9. 模擬授業 (本番)
10. 自分の振り返り (ポートフォリオチャート等)

31

## 構成の原理

どのような順序で学習を進めれば、学生がよりよく学べるでしょうか？

- (1) 理解・記憶・行動しやすい
- (2) モチベーションを高める
- (3) 知識の構造を示す

東大FFP

32

## 構成の原理

(3) 知識の構造を示す



## 構成の原理

(3) 知識の構造を示す



## 構造のタイプ°

- Competition and complementarity
- Parallelism
- Process
- Sequences/Chronology
- Categorical Hierarchy

東大FFP

35

## グラフィックシラバスの作成

大まかな構成をもとに、15コマの構造を可視化します

- 目的・目標に適っているか？
- 学びやすい流れになっているか？
- 詰め込みすぎているか？

## ◆WORK◆ グラフィックシラバスの作成

1. **内容**，学習方法，課題をそれぞれふせん1枚に一つ挙げましょう
2. ふせんに挙げた事項の関連性に注意しながら配置しましょう
3. コマの順を適宜つけます（1から15の数字を書いた付箋を作ってはる）
4. ペアで説明

目的・目標に適っているか？  
学びやすい流れになっているか？  
詰め込みすぎているか？

## コースデザインで気をつけること

1. 目的・目標との整合性
2. 学びやすい流れ
3. 実現可能性（詰め込みすぎているか）
4. カリキュラム・ポリシーとの整合性

まとめ

## ふりかえり

---

40

## 参考文献

---

- Slattery, J.M.; Carlson, J.F. (2005). "Preparing an effective syllabus: current best practices.". *College Teaching* **54** (4): 159–164.
- Grunert, Judith(1997) *The Course Syllabus*, Bolton, MA:Anker Publishing
- Nilson, B. Linda (2007) *The Graphic Syllabus and the Outcomes Map: Communicating your course*, San Francisco, Jossey-Bass
- Wiggins, Grant P., and Jay McTighe. *Understanding by design*. Ascd, 2005. (G. ウィギンズ・J. マクタイ著, 西岡加名恵訳, (2003) 『理解をもたらすカリキュラム設計 「逆向き設計」 の理論と方法』, 日本標準刊)
- 日本医学教育学会 (2008) 『医療プロフェッショナルワークショップガイド』 篠原出版新社
- スーザン A. アンブローズ, マイケル W. ブリッジズ, ミケーレ ディピエトロ, マーシャ C. ロベット, マリー K. ノーマン, 栗田佳代子訳 (2014) 『大学における「学びの場」づくり よりよいティーチングのための7つの原理』 玉川大学出版部
- 栗田佳代子・日本教育研究イノベーションセンター編 (2017) 「インタラクティブ・ティーチング」 河合出版
- もっと使えるシラバスを書こう (インタラクティブ・ティーチング動画)  
<http://www.utokyofd.com/mooc/contents/knowledge/week5>

## 目的と到達目標

---

**目的**  
学生の学習をより促進するシラバスの役割とコースデザインを理解し、シラバスを改善する

- シラバスの役割を3つ以上あげることができる
- コースの目的・目標を適切に設定できる
- 持参したシラバスを理由を明確にして改善できる
- シラバス構成の改善について具体的な指針を持てる

41